

海を越えた文学の再発見

李 雪

中国寧波大学講師

2012 年度奨学生

2017 年 3 月中旬、渥美財団の派遣プログラムの支援で、およそ一週間に亘って、研究調査のために日本に短期滞在しました。

3 月 17 日、渥美財団事務局にご挨拶に伺い、久しぶりに皆様にお目にかかって、楽しく話し合いました。ここは私の留学生生活を懐かしむことのできる場でもあります。

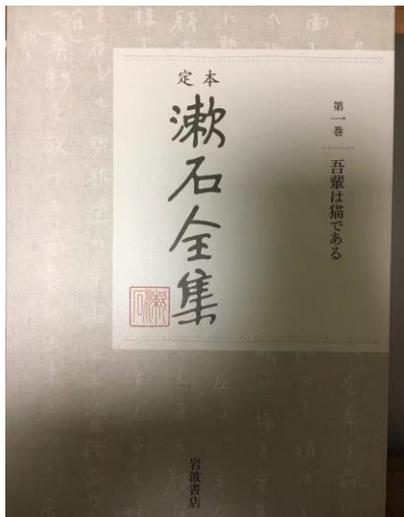
3 月 18 日、白百合女子大学で開かれた荒木正純教授の退官記念講演会に参加しました。荒木先生は私が卒業した筑波大学人文社会研究科の教授で、博士論文の指導をしてくださった恩師です。この講演会の主催者は筑波大学の齋藤一先生と鶴見良子先生でした。日本のみならず、世界中で活躍される多くの卒業生も参加しました。膨大な資料を踏まえた今回の 2 時間のご講演を通して、西洋文学と日本文学との交流の一側面が、表象論の視点から明らかになりました。久しぶりに先生の講義を受け、大変感銘を受けました。講演後の「感謝の会」の宴会へも参加しました。近況報告をした後、留学生の代表としてスピーチをし、思い出にひとりながら、長きにわたりご指導をくださった先生に深い学恩への感謝の意をお伝えしました。

その後、日本近代文学関係の資料の収集に取り組みました。特に夏目漱石です。文学ファンならずとも、日本人で漱石の名前を知らない人はまずいません。漱石が近代文学を確立した功績は計り知れず、また後世の文学や思想に多大な影響を与えていることからわかる通り、日本を代表する文学の巨人と言っても過言ではないのです。漱石が世を去ってから 100 年もの歳月が経ちました。昨年は没後 100 年、今年は生誕 150 年として、記念イベントが続々開催されています。岩波書店からは『定本 漱石全集』が出版されました。小説以外の評論・俳句・漢詩はもとより日記・書簡等も含まれていますが、可能な限り現存する漱石の自筆原稿・資料に基づいて全集の本文が確定されたそうです。しかも、2002 年の第二刷刊行後、新たに確認された原稿なども含まれています。

今回は多くの新書を購入し、日本近代文学館、神奈川日本文学館でも関連資料を集め、新しい資料を手に入れることができました。中国でも相変わらず漱石作品の翻訳・研究が進んでいます。私自身が指導している卒業生のなかでも、漱石を卒業論文の研究テーマとする人が少なくありません。中国の作家・魯迅と比較されることも頻繁にあります。

これから、日中近代文学の比較研究を進めていくうえで、著名な作家を読み直すということも、私が学生を指導する上で役立つでしょう。





また、千葉県の実業家である本屋さんで、地元の物語を題材とした小説、『海に見える花屋 フルールの事件記』が見つかり驚喜しました。海岸を舞台としたミステリーだそうです。私が今住んでいる浙江省寧波はかつて明州と呼ばれ、昔から中国の重要な港町であり、日本と中国との歴史・文化交流に大きな役割を果たした拠点であります。今年の11月に、「海洋文学と文化」という国際シンポジウムが寧波大学にて開催されます。私も研究発表をする予定で、現在、日本と中国の文学における海岸の表象について、関連作品を探っています。今回の『海に見える花屋 フルールの事件記』という作品をも視野に入れて、これから解読の作業をしていきます。昔の海をめぐる伝説や神話を含め、新たな海洋文化を孕む寧波でも、日本と同じく文学の価値を再発見することができればと思います。

末筆ながら、このたび、財団からご支援を頂き、母国から再度渡日、短期研究を実現することができたことに、誠に感謝しております。渥美国際交流財団の関係者の方々には厚く御礼申し上げます。私は博士号取得後も、日本文学研究について、とりわけ翻訳研究を中心とし、日中文学・文化交流の研究を行ってきました。中国で就職できましたが、日本側の研究資料などを入手することがなかなか難しく、大変困っています。今回の旅はこれからの研究に役に立つと信じております。

このように、海を越えた文学の再発見も続けられますように。

